

「京都大学図書館機構将来構想 2020-2027」

後半の重点課題

2024(令和 6)年 2 月 京都大学図書館機構

「京都大学図書館機構将来構想 2020-2027」（以下、「将来構想」と訳す。）の第 4 か年目に当たり、前半期における図書館機構を巡る状況の変化と課題の達成状況を踏まえて整理した、後半期の重点課題を以下にまとめる。

重点課題

- ・ 今後の国としてのオープンアクセス（OA）方針（2025 年即時 OA 政策）を先取りした取り組みを推進し、先導的 OA モデルを構築する。
- ・ 学内関連部署と連携して、研究データ管理計画の策定をはじめとする支援体制、研究公正、研究インテグリティを含む「研究リテラシー」の支援体制、データ駆動型の研究サイクルを有効に活用した研究成果の発信体制を構築する。
- ・ ポストコロナにおけるデジタル・ライブラリー実現に向けた変革を行うため、従来の資料・場・支援に係る提供サービスのあり方を見直し、合理的な集約と全体最適にかなったサービスへと再構築する。
- ・ 「図書系職員の業務および配置に係る検討ワーキンググループ」において検討された図書館機構のあり方と図書系職員の業務および配置に基づき、体制を整備する。

なお、図書館機構を取り巻く状況がとどまることなく変化する中で「将来構想」を実現するために、具体的な活動の内容や手順を示した「実現計画」については、適宜、最新かつ最善のものにアップデートして取り組むこととする。